

人新世を耕す

帯広畜産大学 筒木潔名誉教授

⑦

土づくりで地力維持

高品質で安定生産に活用

一般に緑肥の栽培は作物栽培を休閑して行われる。また緑肥の効果は化学肥料や農薬のようにすぐに現れるものではない。そのため、一時的に減収につながる恐れもあることから、農家さんはその導入を躊躇（ちゅうちよ）することも多いと

思う。

ニンジンが連作可能

スガノ農機株式会社は 2003 年以来製作している「ヒューマンドキュメンタリー」という一連の DVD では、緑肥の栽培を地力維持の基本として、高品質な農産物の安

定生産に活用している篤農家さんの例を多く紹介している。

その No. 2、No. 9 の熊本県菊陽町、本田和寛さん・亮希さんの「大自然ファーム」では、ギニアグラスを緑肥として栽培して深くすき込むことによっ

て、長年にわたるニンジン

の連作を可能にしている。No. 10 の千葉県成田市、瀧島敦志さんと秀樹さんも緑肥エンバクで土づくりをしながら高品質なニンジンで長期連作している。

面積控え高品質生産

同じく No. 10 の北海道留

寿都町、玉手博章さんは贈答用のバレイシヨ「キタアカリ」を受注生産しているが、土づくりの基
本は飼料用デントコーンの栽培とすき込みであり面積の拡大を控えながら高品質なバレイシヨの生産を続けている。

No.11の岩手県滝沢村、庄司有弘さんと敬介さんは、4 haの農地の3分の1で長芋栽培を行い、残りの3分の2の農地ではイネ科牧草と赤クローバーを混植して地力維持を行っている。このことにより、気候不順に影響されずに高品質な長芋を安定的に生産している。

吉本氏と芽室町平均との収量比比較

作物	1974年		1975年 冷湿害凶作年	
	吉本	芽室町平均	吉本	芽室町平均
テンサイ	6,117	3,841	6,300	3,520
バレイシヨ	4,390	2,260	4,500	3,190
小麦	282	278	330	248
小豆	240	157	250	152

収量 kg/10a. 熊田恭一：土壤環境(1980) p.114-115 より抜粋

冷害年でも安定収量

同じくNo.11の北海道河

培によって地力が維持さ

ている。

これらの例は、緑肥栽

を示している。

西郡芽室町、吉本博之さんは畑輪作農家であるが、30 haの農地のうちの7・8 haを緑肥（最近ではデントコーン、以前は赤クローバー・チモシー栽培と堆肥散布）にあて、残りの22 haで通常農家の30 ha分に相当するか、さらに上回る畑作物の収量を上げている。しかも冷害年でも安定した収量が得られた。

き、農地面積が少なくても高収益が得られることを示している。

誠意と確実の表徴



フタバ印

フタバ印のタネ

感動と満足の種子

埼玉県久喜市野久喜1-1

野原種苗株式会社

電話 (0480) 21-0002(代)

FAX (0480) 23-5005

タネは1番・デンワは2番

れ、高品質な農産物を安定的に収穫することがで

(つづく)